令和8年（2026年）
9
No.839

The Religion News
宗教新聞
https://www.religion-news.net

発行所　宗教新聞社
〒160-0022 東京都新宿区新宿5-13-2
電話　03-3353-2940（代）
FAX　03-5363-5182
religion@sage.ocn.ne.jp
郵便振替口座　00130-9-22704
ⓒ宗教新聞社 2026
購読料（税込）　1部　500円
半年　3,000円（〒共）
年間　6,000円（〒共）

宗教間対話で世界平和を

世界の宗教・宗派代表450人が参加
比叡山延暦寺

宗派を超えて内外の代表が平和を祈る39回目の「世界平和祈りの集い」が8月4日午後、滋賀県大津市の天台宗総本山・比叡山延暦寺で開かれた。宗教間の対話と協力による世界平和の実現を目指し、世界の諸宗教・宗派の代表ら約450人が参加。「集い」は1986年にローマ教皇ヨハネ・パウロ2世の提唱で、イタリア・アッシジで諸宗教の指導者が祈りを捧げた「平和祈願の日」を受け、翌87年に当地で開かれた「比叡山宗教サミット」の精神を引き継ぐもの。「平和の鐘」が響く中、参加者は共に平和の祈りを捧げた。

連合会委員長・日本聖公会の柏原良英会長、世界宗教者平和会議（WCRP）日本委員会の戸松義晴理事長、世界連邦日本宗教委員会議長・神道扶桑教の宍野史生管長、および主催者代表で天台宗の藤光賢第259世座主（名代・堀澤祖門天台宗探題大僧正）。

次いで、藤光賢天台座主の「人々が不安に苛まれている時にこそ、宗教者は対話による相互理解を深め、共に祈りを捧げつつ、世界平和を希求し続けねばなりません」とする主催者代表挨拶が読み上げられた。

続いて海外から、世界仏教徒連盟のパロップ・タイアリー会長とローマ教皇庁諸宗教対話省のジョージ・ジェイコブ・クーバカド長官からの平和のメッセージが、それぞれ代読された。最後に、閉式の辞を延暦寺の獅子王圓明執行が述べ閉会。来年は40周年記念大会が国立京都国際会館や延暦寺などで開催される予定である。

式典後、大本の出口紅教主は「こういう素晴らしい集いが続いて来年40周年になるので、がんばって準備したい」と、神道国際学会の三宅善信理事長（金光教春日丘教会長）は「国連安保理の常任理事国が国際法を無視して戦争を始めるような時代になった。宗教者も集まって対話するだけでなく、社会とりわけ若い世代に発信することが必要なのではないか」とそれぞれ語った。

祈りを捧げる宗教・宗派の代表たち＝8月4日、滋賀県大津市の延暦寺

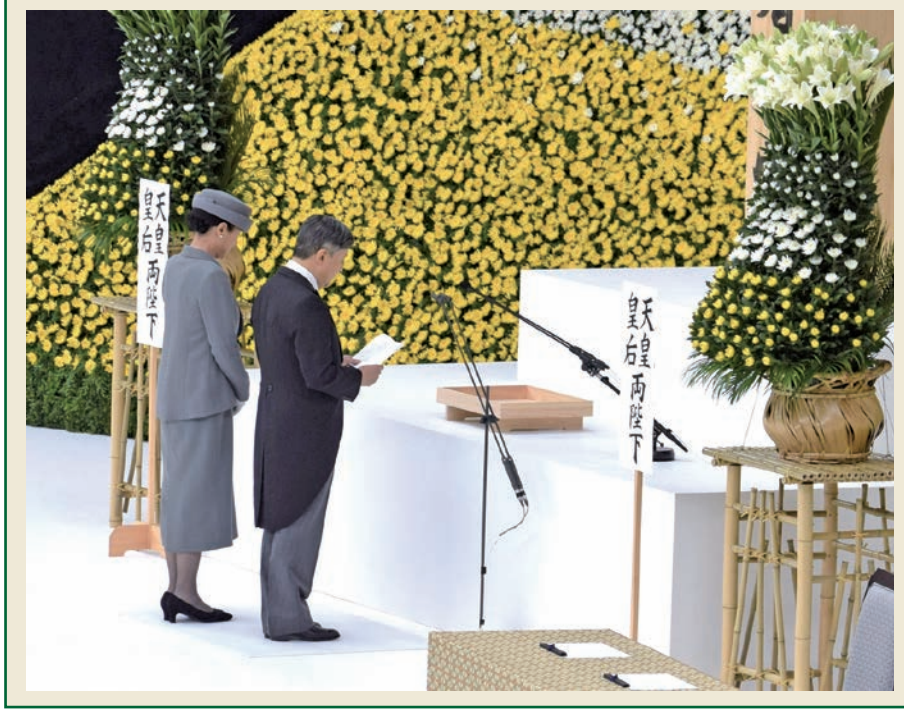
第1部「平和の式典」は延暦寺会館で開かれ、細野舜海天台宗宗務総長が、熊本地震の被害者に見舞いの言葉を述べた上で「大国による覇権主義的な行動で戦後秩序が乱れ、世界はかつてない試練の時代を迎えている。今こそ宗教宗派を越えて共働し、連帯の絆を強めたい」と述べた。

続いて、草創期から「集い」を支えてきた世界宗教者平和会議（WCRP）日本委員会の杉谷義純会長の講演（2面に掲載）があり、世界の子供たちの福祉と教育支援金として、参加者一同の名で目録が日本ユニセフ協会の早見研専務理事に手渡された。

第2部は一隅を照らす会館前の「祈りの広場」に会場を移し、初回の比叡山メッセージを仏教とキリスト教を代表する若者が朗読。続いて諸宗教の代表が登壇し、「平和の鐘」が打ち鳴らされるのに合わせ「平和の祈り」を黙祷で捧げた。

登壇したのは、教派神道連合会会長の出口紅教主、全日本仏教会副会長・天台真盛宗の武田圓龍管長、日本キリスト教

全国戦没者追悼式



8月15日に行われた全国戦没者追悼式でお言葉を述べられる天皇陛下（記事2面）

移転のご案内

弊社はこの度、事務所を移転することとなりましたのでお知らせ致します。新事務所での業務は今月15日頃より開始致します。

新住所：東京都世田谷区豪徳寺1丁目22-2　サカイビル2F
（〒154-0021）
新電話番号：03-5799-4815
新FAX番号：03-5799-4816
（メールは変更ありません）
宗教新聞社

天地

本紙8月号で評論家の三浦小太郎氏は「宗教的価値観がここまで低下したのは日本の歴史上、なかったのではないか。宗教の価値観が崩れていくと他の価値観は保てなくなる」と述べている▼例えばカトリックの信仰を持つ天野貞祐文相（当時）は『国民実践要領』（道徳の指針、1951年）で「われわれの人格と人間性は永遠絶対のものに対する敬虔な宗教的心情によって一層深められる…人類の歴史において、人の人たる道が明らかになり、良心と愛の精神が保たれてきたことは、神を愛し、仏に帰依し、天をあがめた人達などの存在なくしては考えられない」と述べている。しかし修身教育の復活だと野党やメディアから反発を受け、要領は撤回された▼また、今の学習指導要領解説書には「宗教に関する理解を深めることが、自ら人間としての生き方について考えを深めることになるという意義」を十分考慮すると記されている。現代に生きる我々、は少なくともこれらの価値を思い起こす。